

7月1日 ルカによる福音書6章27～38節

【解説と黙想】

敵を愛せ

マタイ福音書5～7章の「山上の説教」では、さまざまなことが語られ、教えられていたが、ルカ福音書の「平地の説教」では、冒頭の「幸いなるかな・災いなるかな」と、締めくくりの「家と土台」という共通する外枠のほかに語られる戒めは、「敵を愛しなさい」と「人を裁くな」の2点に絞られている。

32、33節で「自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるだろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあるだろうか」と言われている。そして37節で「人を裁くな（よい方にも悪い方にも、神を差し置いてあなたが判断するな、という意味）」と戒められている。

ルカはこのあとすぐ7章で、ユダヤ人の長老たちがこの戒めに真っ向から逆らっている姿を描く。

「長老たちはイエスのもとに来て、熱心に願った。『あの方は、そうしていただくのにふさわしい人です（←判断している！）。わたしたちユダヤ人を愛して（←愛してくれる人を愛したところで、どんな恵みがある！）、自ら会堂を建ててくれたのです（←自分たちによくしてくれた人に善いことをしたところで、どんな恵みがある！）』」（7：4）。

しかし、ルカのこの皮肉は、多くの場合、見過ごしにされている。ユダヤ人の長老たちの姿は他人事ではない。わたしたち人間の現実、神の御心からこれほどかけ離れてしまっている・全く正反対である、ということ、ルカのこの記述に指摘されて、よく自覚したい。敵を愛することができない・人を悪く判断して裁いてしまう姿は自

覚しやすいが、人をよい方に判断して、自分によいことをしてくれた人を愛する傾向があることも戒められているということに注意したい。

イエスは36節で「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」と命じている。これは、マタイの並行個所の「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」（5：48）という命に該当する。「敵を愛せ」「人を裁くな」ということに、こういう完全さが求められている。マタイが「完全な者」と記したことを、ルカは「憐れみ深い者」と言い直した。

ルカはさらに10章の善きサマリア人のたとえでこの「憐れみ」という言葉を用い、「だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」（10：36）というイエスの問いに対して、律法の専門家が答えた言葉（「その人を助けた人です」と訳されている言葉）を「その人に憐れみを行った人です」と記している。「イエスは言われた。『行って、あなたも同じようにし（憐れみを行い）なさい』」（10：37）。ここで示された「憐れみ」は、返してもらうことを全く当てにしない姿だ。

「敵を愛する（赦す・憐れむ）」とは、自分に悪を行い、しかもそれを謝罪しない人間を愛する・赦す・憐れむということ。相手はそれほど罪・悪に陥った半死の状態、自分に対して何も返す力がないのである。その相手を「憐れむ」こと。

イエスにこの「憐れみ」の姿は現われる。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」（23：34）という言葉はイエスの十字架上の言葉として記したのは、ルカだけである。（赤石純也）

7月1日 ルカによる福音書6章27～38節

【説教展開例】

敵を愛せ

◇..... 単元のねらい◇

神の国は父なる神の王国である。憐み深い父に赦された者として生きよう。

「憐れみ深い者となる」

みんなは、学校の友だちと仲良くしていますか。みんなとうまくいっていますか。家族とはどうですか。仲良くしていますか。ずっと一緒に生活していると、相手のいろいろなことに気づきます。「いやだな」「え、どうして?」と思うようなことばかりに気を取られて、その気持ちがどんどんたまると、その人のことが嫌いになり、もはや「友だち」「家族」ではなく、「敵」みたいになってしまいます。つまり、その人に対して、「思い知らせてやりたい」「口もききたくない」「顔も見たくない」という気持ちが強くなります。相手もそういうあなたのことを憎むようになるでしょう。

今日イエスさまは、「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい」(6:27)と言われます。そんなふうになるようになってしまった「友だち」や「家族」のことを、みんなは愛せますか? 具体的に言うと、ちゃんと目を見て挨拶できますか? その人のために祈れますか? その人に親切にできますか?

とても難しいですね。仲の良い友だちには挨拶もできるし、祈れるし、親切にすることもできます。でも同じことを、嫌いな人に対してすることは、わたしたちにはどうしてもできない。イエスさまはそういう

わたしたちの心をお見通しです。そして、できないわたしたちにグサリとこう言われます。「自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるか」(6:32)。「自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあるか」(6:33) こういうことはイエスさまを知らない人たちだっているのではないかと。イエスさまを信じる人は、イエスさまを知らない人たちと同じことをしているだけではいけない、と教えられています。「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」(6:36)。「愛する」とは「憐れみ深い者となる」ことでもあります。

「憐れみ深い者となる」とはどういうことを教えてくれる有名なお話があります。みんなもよく知っている「よきサマリア人」のお話です(ルカ10章)。追いはぎに襲われて半殺しにされた人が道に倒れていました。祭司とレビ人は、その人を見ると、道の向こう側を通って、通りすぎて行ってしまいました。でも旅をしていたサマリア人は「その人を見て憐れに思い」ました。そして、傷の手当てをして、ゆっくり休める宿屋に連れて行って、その費用も全部出しました。イエスさまは「だれが追いはぎ

に襲われた人の隣人になったと思うか」と質問しました。「その人を助けた人です」と答えた人に、イエスさまは、「行って、あなたも同じようにしなさい」と言われました。

このサマリア人は、追いはぎに襲われた人を見て、まず「憐れに思」いました。憐れみ深い人ですね。憐れみ深いので、傷の手当てをして、ゆっくり休める宿屋に連れて行って、返してもらうことを「当てにしないで(6:35)」宿屋の費用を全部出しました。みんなは、この人のようにできますか？イエスさまは「行って、あなたも同じようにしなさい」と言われました。

このサマリア人は、イエスさまです。イエスさまは、罪や悪に陥って、もう全然生き生きと生きられなくなっているわたしたち・半分死んだような状態になっているわたしたちを「憐れに思」ってくださいました。そして、神さまに罪を犯しているわたしたちのために、十字架の上で「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」(23:34)と祈ってくださいました。わたしたちが命の道を

歩むためです。もっと生き生きと生きられるようになるためです。

わたしたちはそういう憐れみ深い父なる神さまに赦していただいたのですから、「あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」と命じられているのです。イエスさまを信じる人は、イエスさまを知らない人たちと同じことをしているだけではいけない、「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい」と命じられています。「悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。……」(6:28)。「人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい」(6:35)。「人を裁くな。……赦しなさい」(6:37)。

難しいことです。でも、イエスさまを信じる人・信じて祈る人に、神さまは聖霊を送って、これを行うことができる力を与えてくださいます。イエスさまを知らない人のようではなく、イエスさまを信じている子どもとして、御言葉を行える人になりたいと思います。(赤石純也)

《今週の暗唱聖句》

あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。(ルカによる福音書6章36節)

7月1日

【幼稚科】

敵を愛せ

〈ねらい〉

神さまに赦された者として生きる。自分は赦されたのだから、お友だちを赦すことができるように神さまに助けをいただけるように一緒にお祈りする。

〈展開例〉

みんなはウルトラマンやプリキュアを見ますか。番組の最後の方で、敵と戦っているところを見ると手に力がぎゅっと入って応援している時もあるかもしれません。当たり前だけど応援しているのは、ウルトラマンやプリキュアのほうではないですか。怪獣の方が好きで自分もあんな風にやっつけられたいと思う人はあんまりいないんじゃないかな。

僕たちは正義の味方を応援したくなります。でも考えてください。僕たちが毎日会う人は、角が生えていてウルトラマンの怪獣みたいな人はいませんね。でも嫌いな人はまるで怪獣みたいにやっつけられてしまえばいいと思っちゃう。でもよく見てもその人には角は生えていない。

なんだか僕たちは自分に嫌なことをしてくる人を怪獣のように思ってしまう。そして自分は正義のウルトラマンだと思っちゃう。でも僕たちは自分のことをよく考えると、実はきちんとしていないし、お友だちに意地悪をしてしまうこともある。いろいろ悪い所がないでしょうか。僕たちの心の中をよーく見てみると自分の中に怪獣はいませんか。

それでもイエスさまは僕たちを赦してくださいました。怪獣が心の中にあるような

僕たち、他の人に意地悪をしてしまう僕たちをそれでも赦してくれたのです。怪獣をスペシウム光線でやっつけていい本当に正しいウルトラマンのような方はイエスさまだけです。でもイエスさまは僕たちを怪獣だからといってやっつけはしない。逆にイエスさまの方が僕たちに代わってやっつけられた。それはイエスさまが十字架について僕たちの罪のために命をささげてくださったということです。

だから僕たちはお友だちが嫌だなと思っても赦すことができる。それはイエスさまに自分が赦してもらったから。意地悪をしてくるそのお友だちはきっとイエスさまのことを知らないかもしれません。イエスさまのことをみんなが知ったら僕たちの世界は本当に変わるはずですよ。イエスさまは天のお父さんが憐れみ深いように、みんなも憐れみ深くなりなさいとおっしゃいました。本当に難しいことですね。仲良くできるように、神さまが助けてくださるように一緒にお祈りしましょう。

〈やってみよう〉

教会学校のお友だち、教会に来ている大人、できるだけ沢山のひとと握手をしてみよう。

〈お祈り〉

天の神さま、僕たちを赦してくださいありがとうございます。それでもお友だちと仲良くできないときがあります。聖霊の神さまが僕たちを助けてください。僕たちの心をきれいにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

7月1日

【小学科上級・中学科】

敵を愛せ

1. ルカによる福音書6章27～30節を読みましょう

- ①誰を愛しなさい、と言われましたか。

- ②誰に親切にきなさい、と言われましたか。

- ③誰のために祈りなさい、と言われましたか。

- ④他に、どんなことを言われましたか。

- ⑤あなたにはこのようなことができますか。

- ⑥どうすればできると思いますか。

2. ルカによる福音書6章31～36節を読みましょう

- ⑦「人にされていやなことは、人にしてはいけません」という言葉を聞いたことがありますか。31節に「人してもらいたいと思うことを、人にもしなさい」とありますが、このふたつの言葉はどこが違いますか。

- ⑧神はどのようなお方ですか。そのご性質を表す言葉を探してみましょう。